

# 笑地域つっしん



ごあいさつ



情報発信

Vol.13  
令和3年(2021)  
10月15日発行

東京オリンピックの熱も冷め、少し肌寒くなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。もうしばらくすると、地域の木々も色づいてくるかと思えます。

「〇〇の秋」、皆様は〇〇の部分に何が入りますか？私はもちろん「食欲」です！おいしいものをたくさん食べたいですね。

さて十月に入り、まん延防止等重点措置が解除されましたが、まだまだ油断は禁物です。最大限の感染予防対策を取りながら地域活動をしていきましょう。

前回の笑地域つっしんでは、改めて小地域ケア会議とはどのような場なのかを振り返りました。また、地域にある社会資源や課題・ニーズの把握の方法として、座談会やアンケート調査、支え合いマップについて説明をしています。

本号では、それらから把握した社会資源の活用や課題の解決に向けた取り組みについて紹介していきます。小地域ケア会議を立ち上げたばかりの支部も、長年継続されている支部でも参考にしていた内容となっておりますので、ぜひ目を通していただきたいと思います！

地域住民に知ってもらいたい情報を発信するため、地域オリジナルのチラシを作成し配布している支部があります。

## どのようなチラシ？

小地域ケア会議の委員で、地域住民に知ってもらいたい情報等を協議し、その地域オリジナルのチラシを作成・配布しています。

発行回数は地域によって異なりますが、年に一〜二回程度発行している地域が多いです。

## どんな時に役立つ？

地域の情報（集いの場や行事等）だけでなく、行政の相談窓口などを地域住民に、幅広く周知することができま

す。チラシを見て、適切な相談窓口につながったり、地域の集いの場を知って参加することができま



# 紹介

## コロナ禍での新たな助け合い 久米支部の取り組み

現在、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、住民同士の交流活動等は延期や中止等自粛を余儀なくされ、さらには話し合いの場さえも十分に確保することが難しい状況が続いています。今回は、このような状況においても、地域のつながりを途切れさせない活動に取り組む久米支部の活動をご紹介します。

久米支部では、地域の役員が「コロナ禍において今だからこそ地域に必要な取り組みがあるはず」と考え、令和二年度は、入手困難になっているマスクを、地域内の三寺院の協力を得て、地域の女性有志約三十名でマスクづくり（小・中学校や福祉更生施設へ寄贈）に取り組みました。

また、今年度は、地域の高齢者の方々から地域役員へ相談が最も多かったワクチン接種について、五月から七月にかけて、各町内会で把握している一人暮らし高齢者等の要援護者宅に、町内会役員や愛育委員・栄養委員、民生委員・児童委員等が手分けして、ワクチン接種に関する情報提供を行うとともに、必要な方にはワクチン接種のための予約や送迎の手伝いを行なうなど、コロナ禍だからこそ必要な声かけ・見守り活動に取り組みました。



